

企画委員会報告

2022 年 11 月 20 日 委員長 美馬達哉

1. 現状と経過

生命倫理学会大会に向けて、メール審議によって、企画シンポジウムの内容を決定した。

2. 大会の企画シンポジウム

第34回大会の「ひとに聴き、ひとを見つめる生命倫理」という大会テーマと関連して、本大会プログラムのとおり「個人情報とひとの顔のはざままで データ・尊厳・公共性」として、異分野横断的に、医療法・医療政策学（個人情報保護法制）およびドイツ近現代史（ナチスドイツ被害者データベース）の研究者の報告を受けて、ひとと生命倫理学について討論する。

（美馬達哉、堂園俊彦、霜田求、田中美穂、宍戸圭介、中塚晶博、杉原正子、川口有美子）

2022 年 11 月 19-20 日
生命倫理学会理事会@関西学院大学

編集委員会 報告

【報告】

1. 学会誌『生命倫理』通巻 33 号刊行に関する状況

*内容

・巻頭言 / 依頼論文 1 / 原著論文 3 / 報告論文 7 / 第 33 回年次大会プログラム

*投稿状況

投稿数 23 / 採択数 10 / 採択率 43%

2. 『生命倫理』通巻 34 号刊行に向けて

2023 年 1 月 15 日締切(学会ウェブサイトから投稿)

→前年(投稿数 15 採択数 5 採択率 33%)より投稿数、採択率ともに向上。

→会員向け ML(jab-ml:00191)にて、編集委員会+研究開発委員会より投稿の呼びかけ発信

→査読にあたり、会員各位へのお願い

3. その他

以上。

編集委員会: 野崎 亜紀子

2022 年 11 月 19・20 日

情報委員会 報告

河原直人（委員長）、脇之蘭真理（副委員長）、飯島祥彦、加藤太喜子、田中美穂、堂園俊彦、中澤栄輔

活動報告

【学会ウェブサイト更新/各種お知らせ対応】

- ・学会ウェブサイト内「書籍紹介・コラム」のページ (<https://ja-bioethics.jp/column/>) 更新及びお知らせの配信
- ・学会誌のページ (<https://ja-bioethics.jp/journal/>) 更新
- ・会員からのお知らせに係る対応（情報委員会内で審議。後援希望の場合は総務委員会の審議を経て対応）
- ・その他、事務局、他委員会等と連携して、各種のお知らせに係る対応。

【会員管理に係る対応】

- ・未納会員等（今年度分未納、2 年分未納、3 年分未納）に会費のお支払のお願いを配信（会員管理システムの配信システムを利用）。
- ・各種メーリングリスト等の登録更新を逐次実施。
- ・その他、事務局と連携して会員からのお問合せ等に対応。

【年次大会運営支援】

- ・定期的に年次大会事務局、SETENV 担当者らとオンラインミーティング等を開催し、実行委員会の検討状況にあわせて支援。
- ・年次大会ウェブサイト（一般公開用）及び大会参加者限定サイト構築に関する支援
- ・Peatix サイト（非会員の参加登録の窓口）構築に関する支援
- ・年次大会に関する情報を会員向け ML で逐次発信。

【その他】

現在、過去の大会サイトのアーカイブのページを工事中です。閲覧できず、ご迷惑をおかけしておりますこととお詫び申し上げます。整備が完了次第、また周知させていただきます。

2022 年 11 月 19 日 日本生命倫理学会評議員会、理事会
2022 年 11 月 20 日 日本生命倫理学会総会

部会運営委員会からの報告

2022 年度の部会活動について

- ・ 6 件の応募申請があり、選考委員会（執行部＋部会運営委員会）審査の結果、6 件採択（授業法研究部会、研究倫理部会、介護の倫理部会、新生児・小児部会、人生の最終段階におけるケア（End of life care）のあり方に関する部会、基礎理論部会）
- ・ 6 件全てが前年度からの継続部会であるために、今年度は中間報告を免除（年度末に最終報告のみを求める）
- ・ 4 月上旬から活動開始しており、活動状況は学会 HP で確認可能
https://ja-bioethics.jp/news_membership/

部会運営委員会：一家綱邦（委員長）、会田薫子、有江文栄、中澤栄輔

2022 年 11 月 20 日 美馬達哉

部会に関する臨時委員会

1. 発足の経緯

本学会の部会制度についてこの数年でいくつかの改革があった。2021 年度に関しては、「臨床倫理コンサルテーション部会」が、部会運営委員会と理事会との合意のうえで、部会発足前の時期に「臨床倫理コンサルタントをすでにスタートしていること」が問題視され、採択されなかった。ほかには、その部会について部会独自の活動と生命倫理学会としての活動の切り分けの問題も指摘された。また、ほかの部会についても、調べれば同様のことがあり得るとの問題も指摘された。

これを学会としてのガバナンス不足の問題として、理事会の要請により、タスク・フォース的に「部会に関する臨時委員会」が発足した。

2. 第 1 回打ち合わせ（2021 年 8 月 10 日、Zoom）

秋葉悦子、香川知晶、小門穂、小松美彦、佐藤雄一郎、柘植あづみ、鶴若麻理、野崎亜希子、美馬達哉（敬称略）を委員として発足し、美馬が委員長、小門、鶴若が事務局を担当することに決定した。

現在の部会運営委員会の制度が発足するまでの経緯を尊重し、単年度でなく時間をかけて、①特に前期 2020 年度の部会の活動内容の確認、②学会活動のなかで「部会」をどのように位置づけるのか検討を行い、理事会での議論のたたき台とする、という方向性が確認された。

3. 第 2 回打ち合わせ（2022 年 2 月 10 日、Zoom）

2020 年度の部会の最終活動報告書（2021 年 3 月 30 日理事会資料）を確認し、前部会委員長の大西先生ともメールでやり取りしたが、当初の部会運営委員会と理事会で問題となった活動内容についての詳細の事実確認は不明であった。

そのため、2021 年度の活動のまとめとなる 2021 年度末を目安に、2020 年度および 2021 年度の部会長あてで、部会活動に関する確認をメールで行うことを決定した。

4. 第 3 回打ち合わせ（2022 年 8 月 19 日）

部会活動に関する確認の調査の結果をまとめると以下のとおりであった。

2021 年度に関して、4 月 1 日から承認までの期間に、部会としての活動をしたとの回答はない。

3 月末から承認までの間で、継続的に活動している（部会としてではなく）・継

続的活動の必要があるという回答は、複数の部会からあった（１か月程度なら許容範囲）。

単年度で、報告書の提出や次年度の申請書が２から３月だと、年度末の多忙に重なり、手違いで継続できなくなることがある（複数の部会から）。

5. 現状と今後の方向性について

当初の問題は、部会活動に対する学会・理事会のガバナンスであるので、本委員会としては、組織上そのガバナンスの軸となる理事会および部会運営委員会での審議に資するために、これまでの議論の経過をまとめ、理事会に報告を提出した（添付の報告書と資料）。

第 33 回日本生命倫理学会年次大会収支報告

<収入>

内容	詳細	数量	単価	合計
大会参加費	正会員	241	5,000	1,205,000
		21	6,000	126,000
	学生会員	23	2,000	46,000
	会友	7	2,000	14,000
	名誉会員	4	0	0
	非会員	102	6,000	612,000
	小計	398		2,003,000
学会からの補助金	年次大会貸付金			500,000
	年次大会援助金			500,000
	小計			1,000,000
収入総計				3,003,000

<支出>

業者等	詳細	数量	単価	合計
(株)城島印刷	予稿集（抄録集）			242,000
	振込手数料			440
	小計			242,440
(株)ネクスト	ディレクション、簡易視聴サイト、当日対応			2,442,000
	振込手数料			880
	小計			2,442,880
しゅくみねっと	支払手数料			60,188
Peatix	決済処理費用			40,086
	振込手数料			210
	小計			40,296
支出総計				2,785,804

収入	3,003,000
支出	2,785,804
収支決算	217,196

記録：

業者等	詳細	数量	単価	合計
SETENV	年次大会 HP 運営			264,000